

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	人口が右肩下がりに減っている。このままでは、10年後に更に大規模な再編が必要になるのでは？教育委員会は管轄が違うかもしれないが、若い人が柳川市で子どもを生み育てたいと思うような環境を作ることが大切ではないか？	人口減は日本全体の課題であり、柳川市でも人口減を食い止め、増やすための施策として、移住・定住促進の取り組みを行っている。教育委員会としては、この学校があるからこの校区に住みたいと市内外の方から言われ、選んでいただけるような魅力ある学校を作りたいと考えている。10年後、20年後に更なる学校再編を必要とせず、むしろ新しく学校を作る必要がでてくるような状況が望ましいのは確かで、人口増を目指しつつ、その取り組みと並行する形で、学校については小規模化の課題解決に取り組みたい。
1	具体的に人口を増やす、若い世代を増やす取り組みとして何をしているのか？私の娘は柳川には仕事がなく、給料も上がらず、とても子どもを産めないと言っている。平成22年頃から学校の適正規模化を検討されているなら、その頃から改善に向けて取り組んできたはずである。	合併当時の柳川市の人口は約7万6千人だったが、現在は約6万4千人まで減っている。この人口減への対策については、当然柳川市でも取り組んできており、具体的な例としては、保育料の見直し、中学生までの医療費助成のほか、住まえるバンク(空家バンク)や移住体験施設「もえもんハウス」等の移住定住施策を行っている。しかし、他自治体も同様に様々な施策を行っており、右肩上がりに人口を増やすことは難しく、駅前の再開発等で何とか持ちこたえている状況だと感じている。今後の活気あるまちづくりのためには、仰るとおり若者の力が必要である。これについては、今後も柳川市として継続して取り組んでいきたい。その中で教育委員会としてできることは、学校を適正規模に再編し、一定規模の職員集団を確保することで教育環境を充実させ、市内外の方から選んでいただけるような魅力ある学校を作ることであると考えている。
2	学校再編について、大川市などの先行自治体と意見交換を行うなどして、よい施策を取り入れて欲しい。	大川市やみやま市などの学校再編を先行している隣接自治体とは以前から意見交換を行い、手順などを参考にしている。
2	また、計画案では、矢留小と両開小で(仮称)柳南小に再編されるが、これに東宮永小も含めるのはどうか？	学校の組み合わせについては、説明会で出た意見は全て持ち帰り、パブリックコメントで公開する計画案を検討する際の参考とする。現在、柳河小・城内小・東宮永小の3校は柳城中に進学しているため、大幅に変化させない方が良いのではないかという思いから今回の計画案を策定している。
3	この再編計画には大賛成である。しかし、校区外の学校に通いたいという子ども、保護者がいると思う。7、8年前には矢留小から柳城中に3割ほどの子どもが進学したこともあった。校区外の学校に通いたいという家庭への対応はどうお考えか？	現在は、「近いから」という理由での指定校変更は認めていない。教育的な配慮が必要な子ども等については、例外的に指定校変更を認めている。学校を自由に選べるようにしてしまえば、同じコミュニティ内で異なる学校に通学する子どもが存在する状況になり、コミュニティの円滑な運営への支障が懸念される。そのため、再編後も現行どおりの対応を考えているが、将来的に変更の可能性がまったくないわけではない。
4	学校再編後、公民館組織や青少年育成市民会議はどうなるのか？	地域コミュニティ活動については、基本的には今までどおり活動していただきたい。学校教育課としては、1つの学校を複数の公民館が連携して支えていただければというのが正直な気持ちである。また、青少年育成市民会議は社会教育団体であるため、学校が統合したからといって統合を強制することはない。矢留、両開校区で連携していただければという思いを持っている。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
4 つづき	<p>連携してとのことだが、矢留と両開校区では取り組み内容が違う。組織がまとまっていないのは、同じクラス内においても、矢留校区の催しには両開校区の子どもは参加できないといった状況がでてくる。別々に取り組んで良いということであれば、子どもたちを区別するようなことになる。どうやってまとめるのか？</p>	<p>現時点で考えている範囲で申し上げると、各組織にはこれまでどおりの活動を継続していただきたい。その中で、各地域で一緒にやろうという気運が高まるのが望ましい形だと考えてはいるが、行政側からその形をとるよう求めることはしない。ご意見は所管の生涯学習課に伝えて協議を行う。</p>
	<p>再編協議会は、開校の2、3年前に立ち上げることだが、矢留校区は6年後に再編協議会が始まり、開校は8年後である。この場で承諾されたとしても、今から5、6年後の人が再編に賛成であるか分からない。協議会発足までは何のアクションもないのか？</p>	<p>基本的にはスケジュールに沿って進めていく。再編協議会(仮称)を立ち上げる際には、そのための説明を行う必要はあると思っている。</p>
5	<p>今の内容に関連しているので、引き続き質問する。この学校再編の話は、継続して地域に伝えていただかなければ忘れられてしまう。毎年説明して欲しい。</p>	
	<p>また、学校が統合されても、地域がまとまらなければ、学校を支えるのに支障がでる。学校を統合するのに、行政区やその他の組織はバラバラで良いですよというようなお答えだったが、本当にそれで良いのか？</p>	<p>語弊があったかと思うが、もちろん青少年育成市民会議等の組織も学校ごとに1つあるのが自然な形であり、理想である。ただ、こちらから統合を強制すべき事柄ではないと考えている。教育委員会内で検討を続けたい。</p>
6	<p>話は戻るが、やはり各地区で事前に協議を進めていかななくてはならない。</p>	
7	<p>私が言いたいのは、2、3年前から再編協議会を行うだけではなく、年に1回ずつ協議の場を設けていただかないとみんな忘れてしまう。PTA組織も教育委員会側も人員が変わる。協議会が始まった際に、再編について何も分からないということでは困るだろう。予備段階で協議する場があれば、校区の方々の意見を市に伝えていけるし、地域で引き継いでいける。</p>	<p>現時点では再編協議会(仮称)の立ち上げは、開校の2年もしくは3年前を予定している。それまでの間、何もしないのかというご質問だが、先行する地区の再編協議会(仮称)において議論された内容については、「再編協議会だより」といった形で対象地域の住民にお知らせする予定であり、その他の地区の公民館や学校などにも配布し、随時、学校再編に関する情報を確認できるよう広報を行っていく。ただ、全ての学校で、直ちに再編協議会(仮称)を作るのは難しい。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	説明会の参加人数が少ない。協議会だよりの配布など答えられたが、どれほどの人が関心を持つのか疑問である。もっと多くの人に集まってもらう場を作って欲しい。	更なる周知の必要性については教育委員会内で検討する。
9	今回の再編基準として、旧市町の範囲を越える再編を行わないことについて異論はない。しかし、柳川市の公式サイトに掲載されている校区ごとの質疑応答を見ると、皿垣校区において、「今後大和地区で6校以上の規模で再編する可能性もある」と発言しており、矛盾している。また矢留校区でも「想定よりも少子化が進めば、計画見直しの可能性もある」と発言している。確たる枠組みさえ決まっていないのに説明会の意味はあるのか疑問である。さらに、中島校区において「(仮称)柳南小は規模が小さめであるが、(仮称)柳城小と(仮称)柳南小を分ける理由は校区が広いからか」との質問に対し、「そのとおり。また(仮称)柳城小と(仮称)柳南小を統合する場合、既存施設では収容出来ないことも理由。更に児童数が減った場合は2校を統合する可能性もあるが、その場合は、学校の場所をどこにするかという大きな課題が出てくる。」という発言をしている。不愉快極まりない。なぜ他校区で先にそのような話をされるのか？	回答の趣旨としては、今回の案においては旧市町の範囲を超える再編を行わない方針を立てているという内容である。その上で、「今後どんなに人口が減っても計画案を変えないのか」という質問に対し、「想定よりも更に児童生徒数が減った場合は、計画見直しの必要が出てくる可能性もある」と述べたところである。また、中島校区において、(仮称)柳南小についての話をしたのは、「(仮称)柳南小が学校規模が維持できなくなった場合はどうするのか」という質問が出たためである。
	「小中学校の統合が遅くなっていることについてお詫び申し上げます」と発言されているが、取り組みの遅れを認めるのであれば、なぜ毎年2校の開校ペースで進めないのか？	確かに、スピード感を持って取り組みを進める必要があると認識している。しかし、開校にあたっては施設の整備等が必要になり、年に2校ペースは難しい。また、再編協議会(仮称)には、保護者や地域関係者だけでなく教育委員会からも参加して精力的に行う必要があるため、スケジュール的にかかなり困難である。
	質疑応答の中で「多様性」という言葉がよく出てきた。子どもや保護者が行きたい、行かせたい学校を作るといふことであれば、小規模校という選択肢を増やすため、矢留小と両開小は現状のまま残してもよいのではないのか？	組み合わせ案については、持ち帰り検討する。